

## 令和5年度第3回自立支援協議会地域生活支援部会 議事要旨

1. 開催日時 令和6年2月6日(火) 午後2時～午後4時
2. 開催場所 市役所4階 会議室S2・3 (オンラインと併用)
3. 出席者 (委員) \*団体名のみ記載  
(福) 佑啓会、(福) 敬心福祉会、千葉商科大学、浦安手をつなぐ親の会  
浦安市視覚障害者の会トパーズクラブ、浦安市肢体不自由児・者親の会「どっこらしょ」  
浦安市自閉症協会、(福) パーソナル・アシスタンスとも、(福) 千楽  
(特非) あいらんど、(株) ふくしねっと工房、(福) サンワーク  
浦安市社会福祉協議会、(医) 城東桐和会 タムス浦安病院  
障害者グループホーム等支援ワーカー  
(事務局) 障がい事業課、障がい福祉課

### 4. 議事次第

1. 開会
2. 議題  
(1) 第3回自立支援協議会及び第2回地域生活支援部会の振り返りについて  
(2) 精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステムの構築について  
(3) 次年度自立支援協議会のテーマについて
3. 閉会

### 5. 配布資料

- 議題1資料1 第3回自立支援協議会報告  
議題2資料1 見える化表(第2回地域生活支援部会)  
議題3資料1・2 次年度年度自立支援協議会のテーマについて

### 6. 議事概要

- (1) 第3回自立支援協議会及び第2回地域生活支援部会の振り返りについて

#### ■説明(リーダー・サブリーダー)

令和5年度第3回自立支援協議会及び第2回地域生活支援部会の内容について振り返りを行った。また、令和5年12月にきらりあにて実施した福祉避難所の開設訓練について、実施結果の共有を大島副リーダーより行った。

#### ■主な意見・質疑応答(リーダー：リ、委員：委、事務局：事)

委：素晴らしい取り組みであるが、せっかくこういった場で共有するのであれば写真で可視化すべきである。そうでないと委員に説明が通じない部分がある。

委：災害想定をもっと検討したうえで取り組むべきでなかったか。個別避難計画を考えれば、ど

んな方が避難してくるかは事前にある程度分かるはずではないか。

委：設備に不具合があることが判明しているなら早急に修繕をすべきである。

委：訓練の結果を振り返るに際して当事者の意見も反映すべきである。

委：無線機のマニュアルを無線機の近くに設置し、誰でもすぐに使える体制にするべきである。

委：訓練を実施したことにより、多くの課題が発見されたかと思うが、この課題について、今年度中に課題解決に向けて取り組む必要があるのではないか。

リ→この福祉避難所の課題について検討する場を今年度中に設定する。

委：今回の能登半島での地震において、当事者が避難所に避難できず、普段利用している施設で受け入れざるを得ない状況となっていた。浦安でも同様の状況となることが考えられる。また、通信回線の復旧が早かったので、スマートフォン等の通信機器の充電手段等も重要性が上がっているのではないか。

## (2) 精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステムの構築について

### ■説明

福田委員より浦安市ソーシャルサポートセンターが1月24日に実施した浦安版「にも包括」研修会について説明を行った後、浦安でのにもケアに対する課題にグループワーキングとして話し合いを行った。

### ■主な意見（リーダー：リ、委員：委、事務局：事）

委：正月の能登半島の地震の際、緊急地震速報による通知がなかった。視覚障害のある者にとって、携帯による速報は大きなツールであり、災害時の情報の取得は課題である。また、乱雑に情報が量だけあっても混乱してしまうため、必要な情報を選んでいくために地域の人とのコミュニケーションが重要である。

委：専門性のある特性に特化した相談員が必要になるだろう。

委：被災時には健常者でも情報不足になるので、視覚や聴覚に障がいを抱えている方は特に情報不足に困るので何らかの支援が必要である。

委：浦安市にとってどんな資源がないかを悲観するのではなく、持っている資源の中で今後どのように整備を図っていくかを検討していくことが重要である。そのためには、当事者や擁護者と現状やこれまでの歴史について話をしっかり聞き検討していくことが重要である。

委：これと合わせてインフラの弱点についても整えられるものは整備を図っていき、今ある資源での整え方と、足りない資源の拡充の2本柱で整備を進める必要がある。

委：精神に障がいのある方が入院できる設備がなく、入居できるグループホームも少なく探すのが難しい。また、見つかっても浦安市内は家賃が高い。

委：親の目線としては、地元には本人にとって昔からの友人もいるため、地元での生活を続けさせたい。そのための支援を手厚くすべきである。

## (3) 次年度自立支援協議会のテーマについて

### ■説明

令和6年度以降の自立支援協議会テーマ別部会で取り扱うべきテーマについて、令和5年度権利擁護部会の議論を踏まえ、グループワークを行った。

■主な意見（リーダー：リ、委員：委、事務局：事）

委：来年度以降の議題についての議論であればこれまでの地域生活支援部会でどういった議題を取扱い、どの議題が継続となり、どんな議題が終了となったかがある方がよいのではないか。

事→令和6年度以降は、テーマ別部会を設定し、それに基づく、進行となっていくため、地域生活支援部会に限らず、次年度以降取り扱うテーマについてを話し合っていたきたい。

委：近辺に在住の障がいのある方を巻き込んだ避難訓練を行い、福祉避難所には当事者の意見を反映していくべきである。

委：福祉避難所について障がいだけでなく高齢者に向けた避難所とも連携が必要ではないか。

委：福祉避難所について課題のあぶり出しを進めていくべきである。

委：にもケアを進めていくためには近所に気軽に相談できる場があるとよい。

委：にもケアという言葉を知らない方も多いため、にもケアという言葉地域に周知啓発を行っていくことが重要ではないか。

委：各事業所はBCPを作成しなくてはならないことになっている。これの作成が進んでいないので、部会の参加者で作成していくのはどうか。

委：障がいの重い方にとって住まいは非常に切迫性のある問題であるため、障がい者の住まいの場については今後も議論が必要ではないか。

委：地域で安心して生活していくためのテーマを話す場は今後も必要である。

委：これまでの部会である程度課題が捻出できているはずなので、その中からテーマを選択していくべきである。